

カ 量

パワー——再生のその後

王蘊先生

POWER

青山ライフ出版

作者について

王蘊先生

王蘊先生は古典美術に精通する芸術創造者・骨董美術収集家であり、また、茶芸を嗜み、台湾早期茶芸文化開拓者の一人で、三個所に及ぶ現代茶芸文化センターの設立者でもある。更には、天文暦や陰陽術に精通し、『易』占い・占星術・タロット占い・奇門遁甲などの伝承が既に失われつつある様々な占いにも熟知している。一方、各派の武術を学ぶ武術愛好家でもあり、十四歳より道家の師の下で形意拳・八卦掌・太極拳・螳螂拳・白鶴拳・少林彈腿・槍術・棍術・流星錘などの各派の武芸を修めた。また、伝統音楽の保存伝承を積極的に提唱し、「国楽」―樂府雅韻と南管樂社―『梵音雅集』を作り上げた。

宇宙を淵源とする生命を受け継ぐために、先生は様々な協会の設立を使命とし、中国人文生命科學永續發展協會・中華國際喬達摩佛教發展協會・生命力文創教育基金會・中華度衆協會・薄伽梵有

限公司及び拾慧文化創意有限公司等を設立した。

先生は仏教各派の伝承を承ける八宗思想の在俗修道者であり、インド、中国、ブータン、ネパールの諸王や上師たちより口伝を受けており、その足跡はアメリカ・中国・オーストラリア及びヨーロッパの各地に及び、その教えを受けた弟子は二十五カ国の数万人に上り、再伝の弟子となれば更に多数である。先生はマインドティーチャーを求める修道過程で、隠遁道士・中国禅林の高僧などの様々な奇人異人と邂逅した。先生は頻繁に各国の各種団体・古刹・学術機関や学校から招かれ、講座・講演・セミナーを行っている弘法の士である。

先生はあたかも映画や小説に登場する不世出の隠者のようで、東西の伝統文化の精髓と現代の西洋世界観を融合したマインドティーチャーと言える。生まれた時から一般の人々とは異なる生涯を経験したために、世俗を厭う気持ちと様々な非凡な体験と感受性を涵養した。先生が身を以て体験した人生物語は、現代版伝奇小説の様に人々の心を感動させている。

先生は日頃から様々な書籍を愛読し、東洋の孔子・孟子などの儒家思想や仙道の学・仏教の三蔵十二部経典、西洋の心理学・哲学や文化歴史など、何れも大変造詣が深い。また、洋の東西を問わ

ず、各種の絵画技術・書法・ヨガ・フィットネスなどについても深く研究しており、多くの企業の
コンサルタントを勤めている。

三十年余りの教員生活において、現代人の身心が様々な不安と欲求に埋め尽くされていることに
先生は気付き、昼夜問わず、長年培ってきた様々な人生経験や知識を縁ある人々に分かち合うこと
に努めると同時に、難解な古典理論を生活と一体化させることで日常化させ、より多くの人がより
多くの創造力を体得・発見・展開させ、日常生活の中で活用できるようにした。

先生は常に我々の常識を超えた創見を持ち、常に我々の心の枷を解き放つ良薬を用意し、現代人
の様々な欲求に合わせた良薬を処方してくれている。世界中の人々が、自分の心の片隅に自分だけ
の浄土を見つける日が来ることを先生は信じている。

はじめに

パワー——再生のその後

世界最大の瀑布であるアフリカのビクトリア滝は、多くの静かな流れが合流してインド洋に注がれる手前で、地形の高低差により、凄まじい勢いとなり、まるで雷鳴のようなパワーを生みだしています。

「パワー」とは、無理やり重いバーベルを持ち上げることではありません。《パワー——再生のその後》では、生命が天地との間に存在できるのは、一人一人にその潜在力があることの暗示であり、仮に、自分には「やり遂げられる」と本当に信じることが出来れば、最終的にその人は大きな勝利を収められると説いています。

「パワー—再生のその後」は、小さな水の流れが集まれば、人の心を震わせることができるような、生命における実践の物語です。一人の辛酸に満ちた老婦人が、人生の終わりをどのようにして優雅に締めくくったのか。人類に偉大な愛を注いだ聖人の出発点は、単に誠実で平凡な心であったこと。かつて強勢を誇った人物も、実は何十年間も思い通りにならず、あちこち寄り道しながら成功したこと。多くの人が恋愛の殺傷力から逃れられないけれども、悔いのない真実の愛を貫くことが、凡人を成功の彼方に押し上げる最強のパワーであること。自分の低さや身体の欠陥が、往々にして彼らに素晴らしい目標を追い求める機会を人一倍大切にさせ、健常者を超越するパワーを生み、称賛に値する良い影響をこの世界に添えてくれるのです。

力が発揮できず、辛く耐えがたいこの時代、株価は値上がりせず、サラリーマンの給与は日ごと
に低くなり、世界の情勢は英雄を生みだせず、どんなに努力しても往々にして無駄働きになつてしまつています。「パワー—再生のその後」はこうした変化に乏しい歳月に現れた宝の地図です。ここでは、時の試練に耐え得る実話を精選しており、どの物語にも成功への手掛かりが隠されていて、心から模索する人に役立つ知恵やアドバイスを紹介しています。信念を持ち、命のすばらしさを大切にすれば、人々はみな自身の決して枯れることのないパワーの源を発掘することができるのです。

もくじ

作者について	3
はじめに	6
自分と向き合う	13
電気学の父の啓示	14
みにくいアヒルの子	23
苦境からの啓発	32
自分こそがパワー	41

愛してこそ情の深さを知る	45
現代の大富豪	55
ゆるすこと	65
テーマパークの巨頭の数奇な人生	66
願いを叶えるには	75
真の英雄にこそ寛容がある	80
忠誠を尽くし、身を投げ出して人々を救ったヴォルテール	86

何も恐れない

..... 95

北米で最も影響力のあるリーダー.....

..... 96

優雅にこの世を去るためには.....

..... 105

カシミヤからの啓示.....

..... 111

伸るか反るかの大勝負をする勇氣.....

..... 116

ファッションの裏側の物語.....

..... 121

遺伝学の父の志向.....

..... 129

強い意志を堅持

..... 137

成功するか否かは自分次第！	138
永遠に諦めない	142
生命に失敗は存在しない	147
成功の秘訣は堅持にあり	154
自分の梯子は自分で作る	160
不敗の細菌学者	165
愛するものを愛す	173
パワーは失恋にあり	174
苦勞して手に入れた恋も一種のパワー	183

一人で？ それとも愛する人と二人で？……………190

堅持すれば不朽の名作が創造できる……………198

睡蓮……………204

黄金60 生命を呼び起こす。パワー……………213

生命力をいつまでも湧き上がらせる法則……………214



自分と向き合う

力
量

電気学の父の啓示

私にとって最も懐かしい思い出は中学生の頃、よく放課後に数人の同級生と老松国民小学校の向かいの路地にあつた読書会に行つたことです。そこにはいろいろな書籍があり、家や学校の図書館にない蔵書を思う存分探すことが出来ました。私はよくそこで本を借りて家で読んでいたため、図書館のボランティア職員と知り合いになりました。学生だった私に、様々な本を紹介してくれた彼らに感謝しています。当時、父は食品工場を経営していて、バスケットやキャンディなどを生産していました。生産した後は、配達員が商品を各地域のお菓子屋や雑貨店に配達し、父は仕事が多忙なことから私たちの世話をする時間がありませんでした。そこで、私はある遠縁のおばさんの家によくお世話になっていました。

彼女の家にも多くの蔵書があり、毎回彼女が本を貸してくれた時の喜びは、今でも忘れることができません。彼女は機会があるごとに、昔日本の教育を受けていた時の勉強がどんなに困難だったかを話してくれました。今でも薄暗い書齋で、彼女がまばらな銀髪の頭をやや傾け、両手を習慣的

にいつも胸の前に交差している姿を思い出します。毅然とした薄い唇は、あたかも彼女はシングルマザーであるけれども、人に勝る根性があることを物語っているようで、さわやかで整った顔立ちが優雅な気質があり、彼女には文学的素養があることを示していました。

13、4歳の時、彼女は私に《太上感応篇》の口語故事集をくれました。当時、中学生の古文のレベルでは難しかったですが、その後の文語体の勉強に大いに役立ちました。また、私に本が読めることはどんなに幸せであるかを理解させ、たくさん本を読むよう励ますために、彼女はいつも古代の偉大な人物について、彼らがどのように苦勞しながら學問を取得したのかを話してくれました。彼らの話は非常に印象深く、今でも目を閉じると、頭の中にいろいろな名前が浮かんで来て、ぐるぐると回っています。正直に言うと、これらの偉人の事績は私に少なからず役に立ちました。例えばこの遠縁のおばさんは、はんちゆうえん 范仲淹（中国北宋の文人）の話をしてくれました。

彼の家は非常に貧しく、身の置き所もないほどでしたが、彼は読書が好きでした。そこで、最も経済的な方法で生活の問題を解決するため、お粥を作って凍らせた後、いくつかの塊に切り分けました。調味料は少しばかりの塩と寺院からもらってきたお酢のみで、毎日こつやつとて飢えをしのぎ、夜を日に繼いで苦學しました。数年のうち、学び疲れても眠ることはせず、寒空の下、冷水で顔を洗い、眠気を吹き飛ばして、勉強を続けたそうです。偉大な人には必ず非凡な過去があることが分

かります。

また劉孝標（中国南北朝時代の文人）の話もしてくれました。彼の家も非常に貧しく、夜に勉強したくても明かりを灯す油が買えなかったため、隣の家から漏れてくる光を借りて勉強したそうです。その後、彼は他の人がいらなくなった麻ひもを編み、それに火をつけて明かりにする方法を思いつき、こうして本を読みました。もう一人、後世の人に影響を与えた人物に蘇秦がいます。彼も若い頃に苦学して成功した例ですが、自分の長髪を天井に結わえ付け、頭を下げて居眠りしそうになると、すぐに痛さで目が覚めるようにして勉強を続けたそうです。最も印象深かったのは車胤（中国の文人、政治家）の話です。彼は螢をたくさん捕まえて布袋の中に入れ、その光によって思う存分に勉強しました。彼は小さい時から苦しい環境の中で勉強し、その後の一生で功成り名を遂げ、將軍となり、吏部の尚書も務めました。

日本には非常に有名な思想家、二宮金次郎がいます。私は何回も日本に行ったことがあります。どこの学術機関でもほとんど彼の塑像を見ることが出来ます。彼の家は極めて貧しく、早くに父親を亡くしたため、家計は全て彼が負担していました。貧困でしたが、彼はあらゆる方法を駆使して常に本を手にして勉強し、草鞋を売って金銭を稼いだ苦しい期間でさえも、勉強することを忘れま

せんでした。ですから彼が有名な農政、経済改革者になれたのも、彼の苦学出身と極めて大きな関係があります。

私はこのおばさんの薫陶を受け、その後も各国の要人の中に、見習うべき手本や対象がないかと常に気に留める習慣が身に付きました。もちろん、学識と知恵はリーダーたる者が備えるべき重要な条件ですが、基本的に殆ど全ての偉大な人物の成功は、苦学及び一般人とは異なる困難との遭遇と切り離すことができません。これは歴史上の成功例にとって不可欠な要素でありプロセスなのです。

西洋の歴史上にも、多くの尊敬に値する人物を見てきましたが、ある時、18世紀のイギリスの科学者マイケル・ファラデーについて書かれた記事を見ました。彼は、当時すでによく知られ、尊敬されている伝説的な人物でしたが、生涯貧しく、定年退職するその日まで持ち家がなく、住んでいたのは政府が提供する宿舎でした。数十年間住んでいた宿舎でしたが、定年退職のその日、彼は妻と二つのトランクを下げ、心の中で今晩は道路に布団を敷いて寝るのかと心配しながら、宿舎の扉を開けました。ところが、本来は国の祭典あるいは女王の誕生日の時にだけ現れる王室音楽隊が整列しており、当時のビクトリア女王（この女王は英国史上でも在位が極めて長い女王で、62年以上